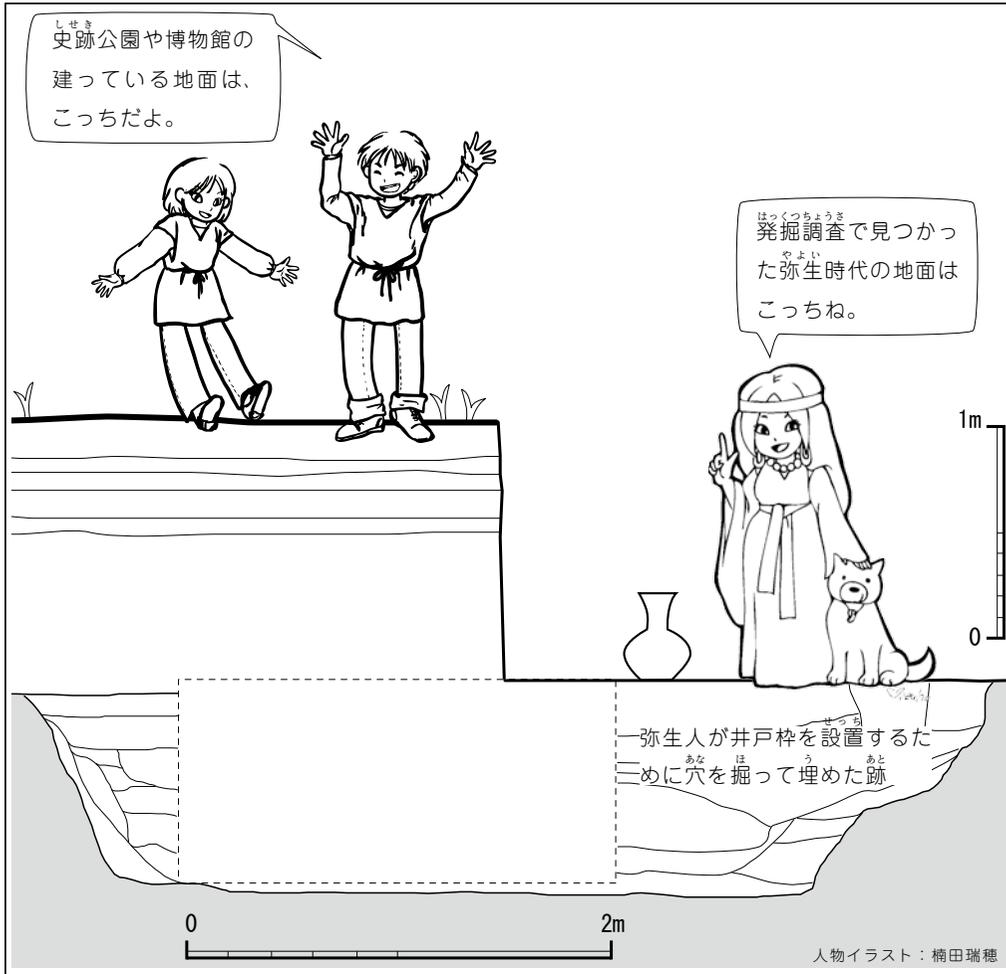


はくつ いけがみそねいせき
発掘 池上曽根遺跡

池上曽根史跡公園の地面の下には、弥生時代の人たちの暮らしていた跡が埋まっています。土の中に埋まっている昔の人たちの暮らしの跡を「遺跡」と呼び、遺跡を調べることを「発掘調査」といいます。



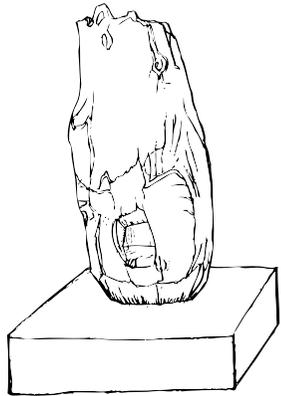
地面の中を横から見ると

史跡公園の地面の中を、横から見ると図のようになります。横じまのように見えるのは土の種類がちがうからです。この集まりを地層といいます。自然に埋まったときは、きれいな横じまになりますが、人が埋めると井戸杵のまわりのようにまだらに見えます。

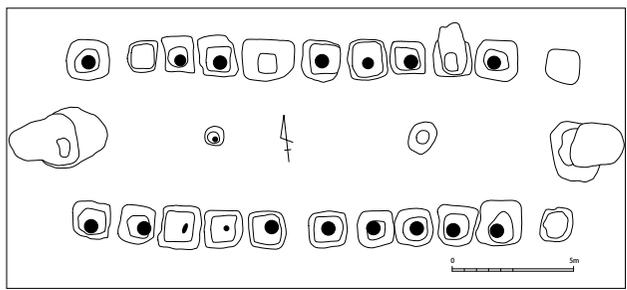
☆ 図の の中に、展示室のまん中にある「弥生時代最大級のくり抜き井戸杵」を横から見た絵を描いて完成させよう。

ふくげん いけがみそねいせき
復原 池上曾根遺跡

展示室の奥の「大柱」は池上曾根遺跡からみつかったもので、建物の柱と考えられています。地上にあった部分は残らずに、地面に埋まっていた部分だけが残っていました。この大柱が埋まっていた状況(図ア)と池上曾根遺跡でみつかった土器に描かれた建物の絵(図イ)から、となりの史跡公園にある「和泉の高殿」(図ウ)が復原されています。

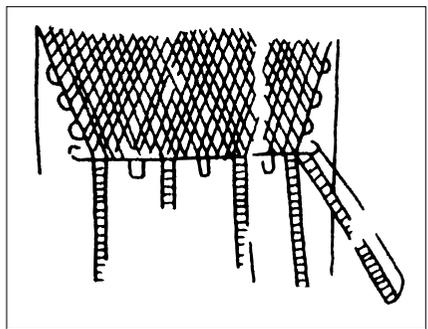


ア. 大柱が埋まっていたようす



大柱は、空から見ると、図アのようにならんで地面に埋まっていたよ。図の●が大柱、そのまわりのゆがんだ□は大柱を埋めるために弥生の人たちが掘った穴なんだ。大きな大柱が何本もならんでみつかったことから、とても大きな建物があったことがわかるんだよ。

イ. 土器に描かれた建物の絵



ウ. 復原された大型建物



※ この建物は史跡公園にあるよ。

☆ それぞれの大柱には、横に穴があいているよ。この穴はどんなことに使われていたのかな。自分の考えを [] に書いてみよう。